



次世代型コミュニティ・スクール
を一緒に作りませんか？

2018.8.7.Tue.

館野 峻

たての しゅん
館野 峻



義務教育学校 主任教諭

一般社団法人Teacher's Lab. 理事

げんしょくラーニングラボ 発起人

いたばし対話プラス ファシリテーター

edcamp ITABASHI 実行委員長

未来の先生展2018 実行委員

1984年生まれ。教員生活12年目。1歳児の父。

現在、東京都教育委員会の派遣研修として東京学芸大学教職大学院で、学生に混じって次世代型コミュニティ・スクールについて研究中。

学校の中だけでなく、学校内外の勉強会や研修会、板橋の地域活動に参画しながら「社会全体で子供たちを育てる環境づくり」について模索、実践研究をしている。

①教育の未来に関する 行政の動き

新たな社会
“Society 5.0”

5.0



1.0
Society 1.0 狩猟

2.0

Society 2.0 農耕

4.0

Society 4.0 情報

[内閣府作成]

Society 3.0 工業

3.0

情報社会から超スマート社会へ



内閣府

Society 5.0に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～ (概要)



平成30年6月5日

Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会
新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

Society 5.0に向けた学校ver.3.0

Society 3.0

工業社会

Society 4.0

情報社会

Society 5.0

超スマート社会

- 人間としての強み（現実世界を理解し状況に応じて意味付け、倫理観、板挟みや想定外と向き合う力、責任を持って遂行する力など）
- 共通して求められるのは、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力など

学校ver.1.0（「勉強」の時代）

◆教育のリソース（教師、教材、場所）を学校が独占し、全員が決められた時間に一律に授業を受け、知識再生型のペーパーテストで成果を測定。

◆カリキュラムは知識の体系（典型が、国語の学年別漢字配当表）。

◆重視されたのは、知識を正確に記憶する基礎学力、忍耐強さ、あらかじめ定められた計画を着実にこなす正確さ。

◆教員の授業研究による教育方法工夫・改善の自主的な蓄積に依存

学校ver.2.0（「学習」の時代）

学習指導要領2017年改訂

◆日本の学校教育の蓄積を活かしつつ、能動的な学び手（アクティブ・ラーナー）を育成する「主体的・対話的で深い学び」。

◆5肢択一偏重の大学入試から記述式を導入した考える入試への転換など高大接続改革。

◆カリキュラムは能力重視の体系へと転換。（語彙を表現に活かす、科学的に思考する、数学を日常生活に活かす...といった認知的能力とその土台となる学習意欲や協働しようとする態度を重視）

◆重視されているのは、自分自身の文脈で情報を編集し、協働・対話を通じて新しい価値や「納得解」を生み出す力。

学校ver.3.0（「学び」の時代）

「K-12教育」から「K-16プログラム」へ

- 次世代型学校においては、教育プログラムを個別最適化した「学び」へ
- K-16のグレードは学年ではなく能力のレベル。人生100年時代のリカレント教育を前提とした教育の仕組みへ
- K-16プログラムは、次世代型学校を軸に大学、NPO、企業など様々な主体がそれぞれの強みを活かして提供

STEAM重視のプログラムにおける他者との協働を通じた価値創出のための学び（体験重視）

人間としての強みを活かした専門意になるための学び（実習体験重視）

・より分析的・批判的に思考するための見方・考え方の深化
・社会の中での自分の役割や責任についての自覚を軸にした学びの展開
・実体験を通じた他者・社会との協働の手応えや自信

・語彙、読解力、数的感覚などの学力の基礎
・実体験を通じた他者とともに生きることの実感
・未知の世界に挑戦する好奇心
・苦しいエモノを作り上げる力



「能動的な学び手」
（アクティブ・ラーナー）

「個別最適化された学びのまとめ役」
（ラーニング・オーガナイザー）
例々の子供の学びと授業における協働学習のデザインとプロデュース（新たな公教育の役割）

個別最適化された学びと学びのポートフォリオ

- 公教育の重要な役割は、子供の学びの状況を観察し、個々人に応じた学びの実現を支援
- 次世代型学校を軸に、大学、NPO、企業などが提供する様々なプログラムを選択して学ぶユビキタス・ラーニング（※）
- 学校は、実体験や他者との対話・協働をはじめ多様な学習活動の機会を公正に提供する役割を重視
- 個人の学習成果（作文、作品、レポート、プレゼン等）は学びのポートフォリオとして電子化、蓄積

個人の認知と性向の特性を踏まえた支援
（認知科学と教育ビッグデータの活用）
※ビッグデータのリスクや限界にも留意

教育ビッグデータの収集・分析（総合的なエビデンス）
スタディ・ログ（学習の履歴）

自治体間や国との連携

研究機関・企業との連携

※ユビキタス・ラーニング：いつでもどこでも学習できること

コミュニティ・ソリューション（人や地域のつながりが課題解決）

国民国家モデル

マーケット・ソリューション（市場が課題解決）

持続可能な開発モデル

ガバメント・ソリューション（政府が課題解決）

グローバル市場経済モデル

人間存在としての基本的な価値や人格形成（善く生きるとは、個人と他者、社会との関わり方…）

社会とシームレスな 「小さな学校」の実現

個々の子供の学びと授業における
協働学習のデザインとプロデュース

地域・家庭・ 情報ネットワーク (実社会との複層的なつながり)



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

「未来の教室」と EdTech 研究会

第1次提言

「50センチ革命×越境×試行錯誤」

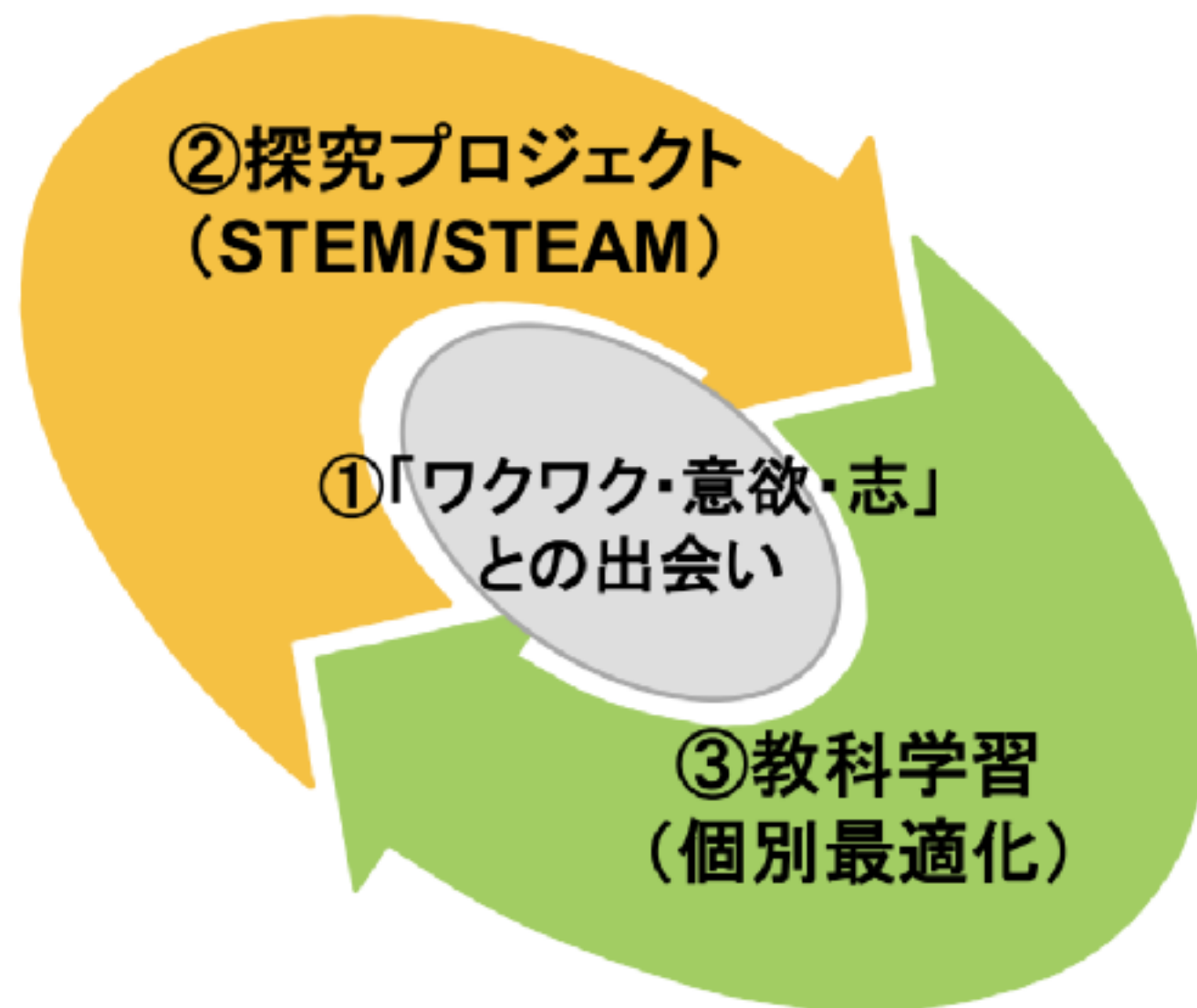
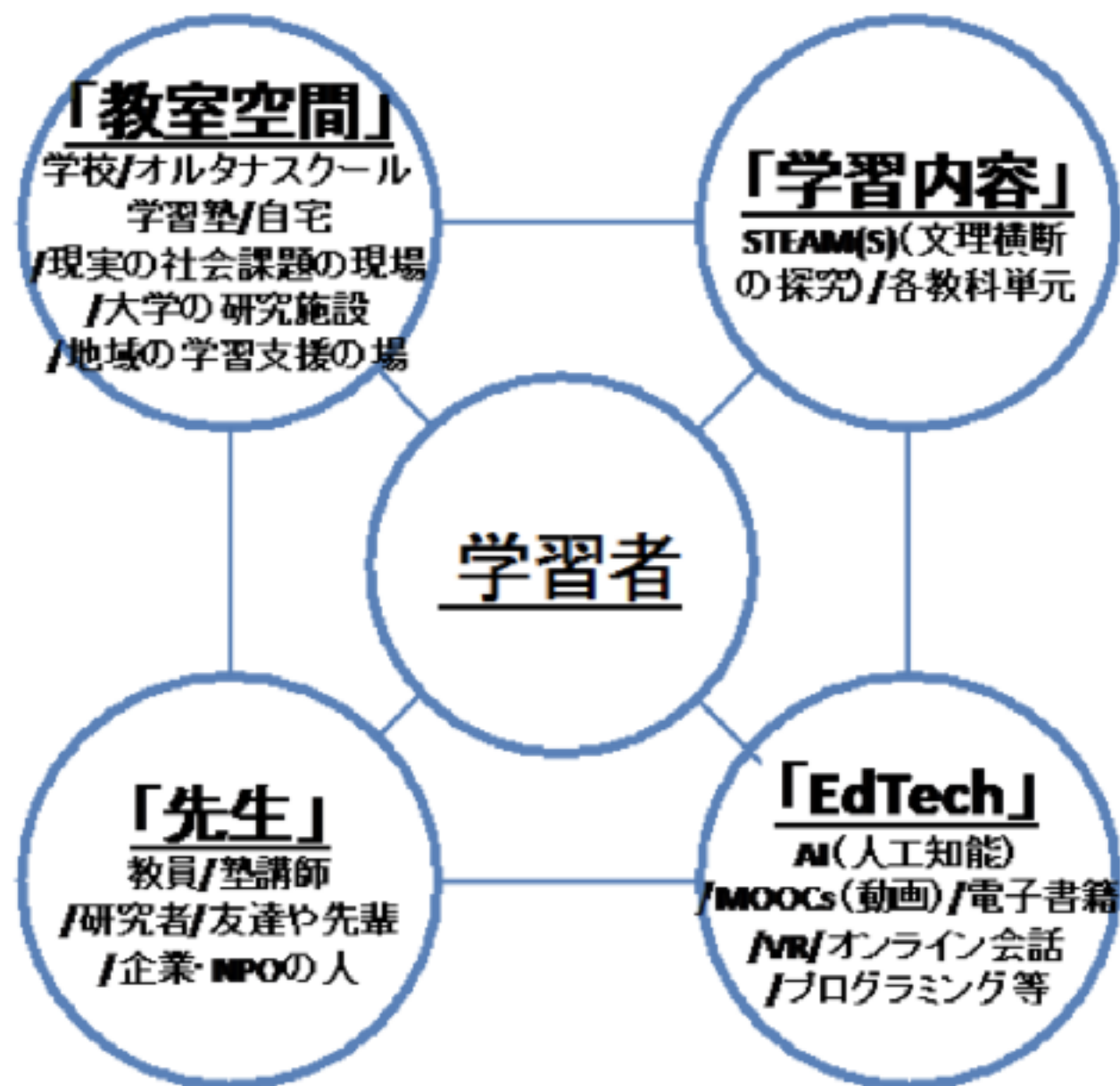
「STEAM(S)×個別最適化」

「学びの生産性」



経済産業省

Ministry of Economy, Trade and Industry



誰もが「創造的な課題発見・解決力」
(チェンジメイカーの資質)を手にする機会が必要

ESD（持続可能な開発のための教育） 推進の手引

文部科学省国際統括官付

日本ユネスコ国内委員会



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



- 1 批判的に考える力
- 2 未来像を予測して計画を立てる力
- 3 多面的・総合的に考える力
- 4 コミュニケーションを行う力
- 5 他者と協力する力
- 6 つながりを尊重する態度
- 7 進んで参加する態度



②コミュニティ・スクール の現在



コミュニティ・スクール とは？

保護者や地域住民が運営に参画する 新しいタイプの公立学校

「教育改革国民会議提案」

(平成12年12月)

「21世紀教育新生プラン（レインボー・プラン）」

(平成13年1月)

学校と地域住民等が力を
合わせて学校の運営に取り
組むことが可能となる

「地域とともにある学校」

への転換を図るための

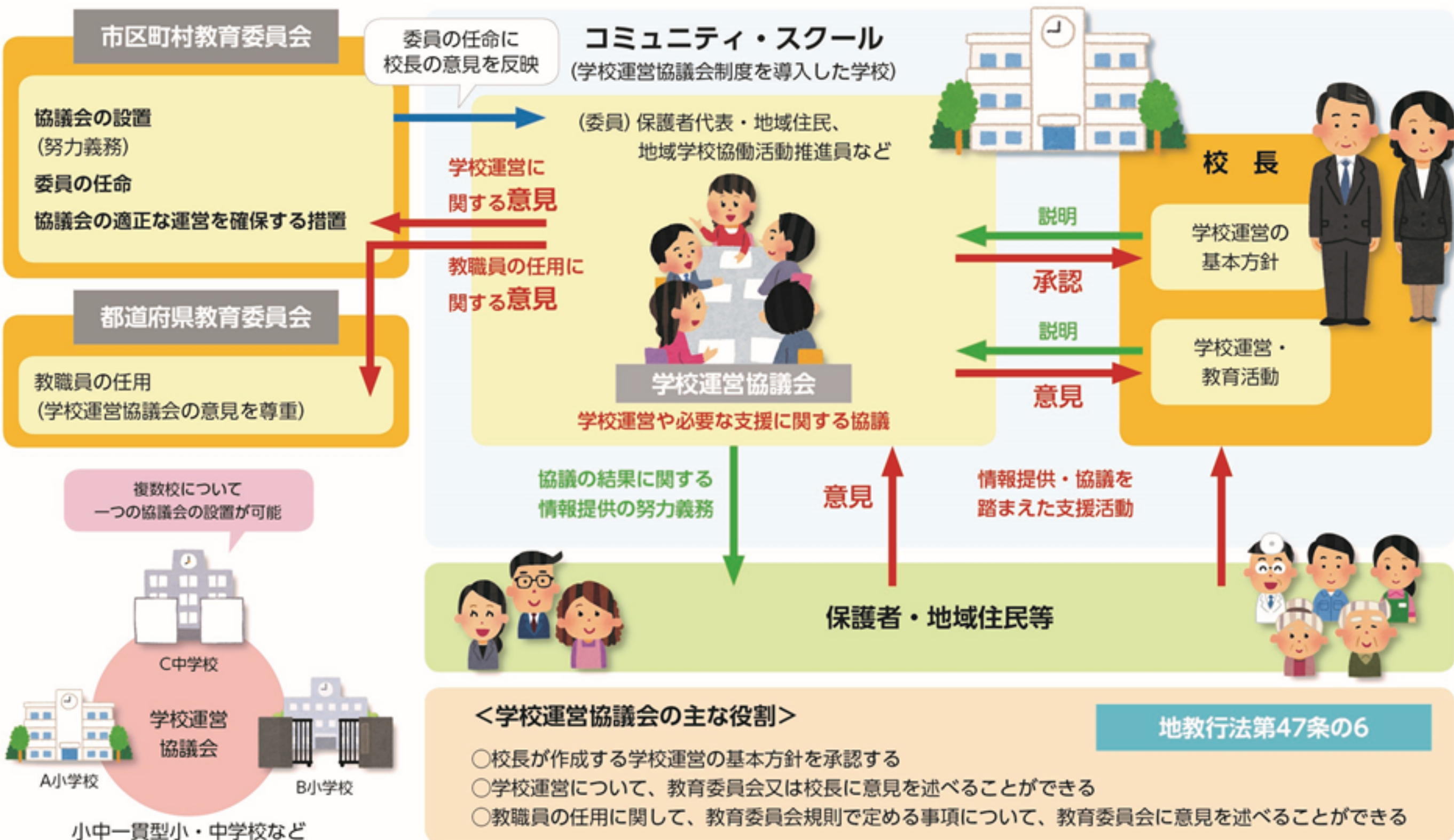
有効な仕組み



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



学校運営協議会を設置している学校

約 5 4 0 0 校

1 4 . 7 %

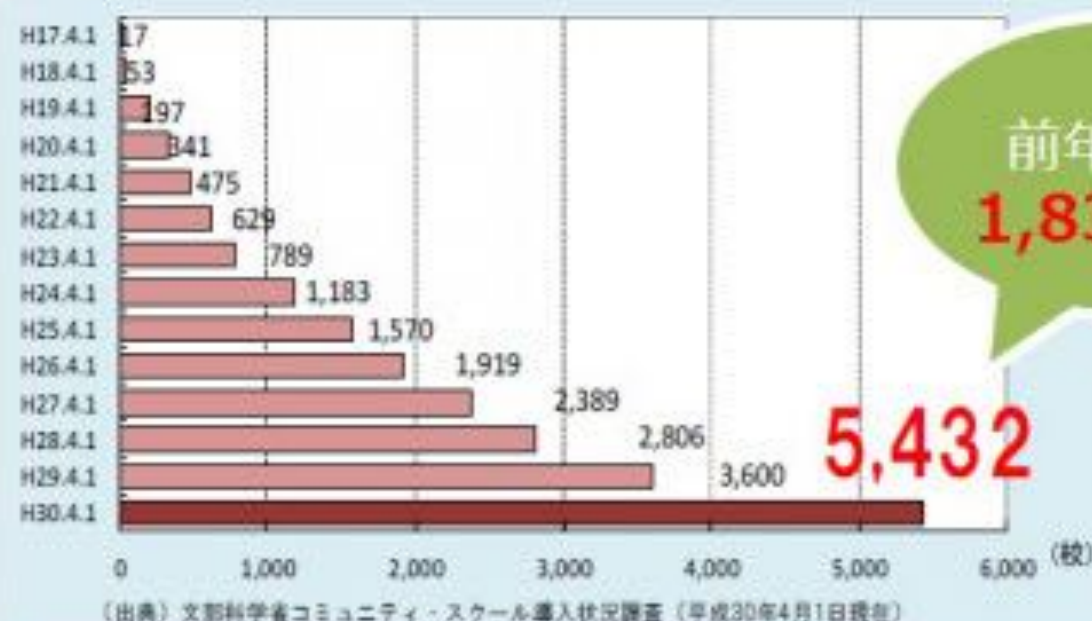
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入状況【学校数】

学校運営協議会を設置している学校数

46都道府県内 **5,432校** (平成30年4月1日現在)

(幼稚園147、小学校3,265、中学校1,492、義務教育学校39、中等教育学校1、高等学校382、特別支援学校106)

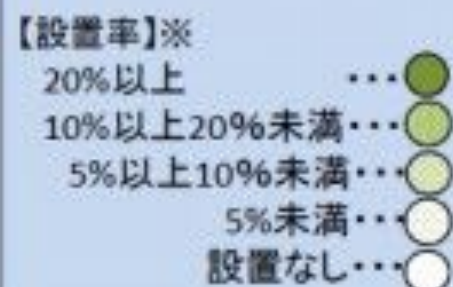
全国の学校のうち、**14.7%**がコミュニティ・スクールを導入



前年度より
1,832校増

5,432

学校運営協議会を設置している
学校の割合



高校での設置が
大幅に増加

◆校種別の設置状況(3年経過)

パーセントはそれぞれの校種の導入の割合
※倍率はH28とH30の比較



※母数は平成30年4月1日調査で、
各教育委員会から報告があった学校数。

※沖縄県は地図を拡大しています。

政府は 平成29年改正により、 協議会の設置を**努力義務**とした

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」 （第47条の6）

【義務教育諸学校等の体制の充実及び運営の改善を図るための公立義務教育諸学校の
学級編制及び教職員定数の標準に関する法律等の一部を改正する法律 附則】

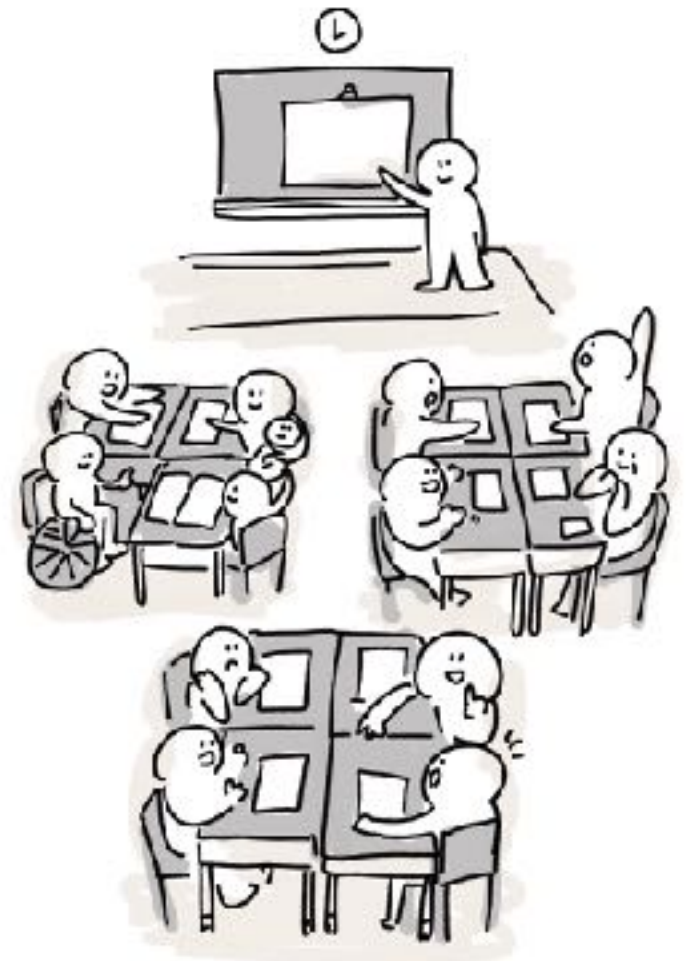
第五条（学校運営協議会の在り方の検討）

③教職大学院での 研究途中経過

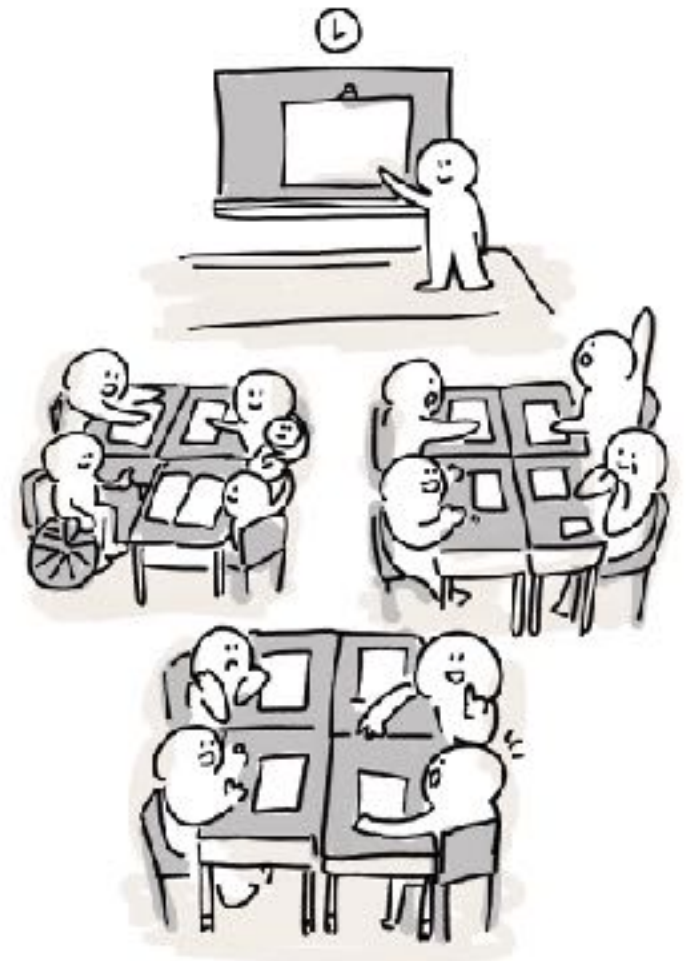


研究テーマ

子どものキャリア教育と 地域のリカレント教育の機能をもつ 次世代型コミュニティ・スクールの 研究



「人生100年時代」を踏まえた 学び直しを促す これからの学校のあり方





キャリア教育？

一人一人の**社会的・職業的自立**に向け、
必要な基盤となる能力や態度を
育てることを通して、
キャリア発達を促す教育

(中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」
(平成 23 年1月 31 日)

キャリア発達とは？

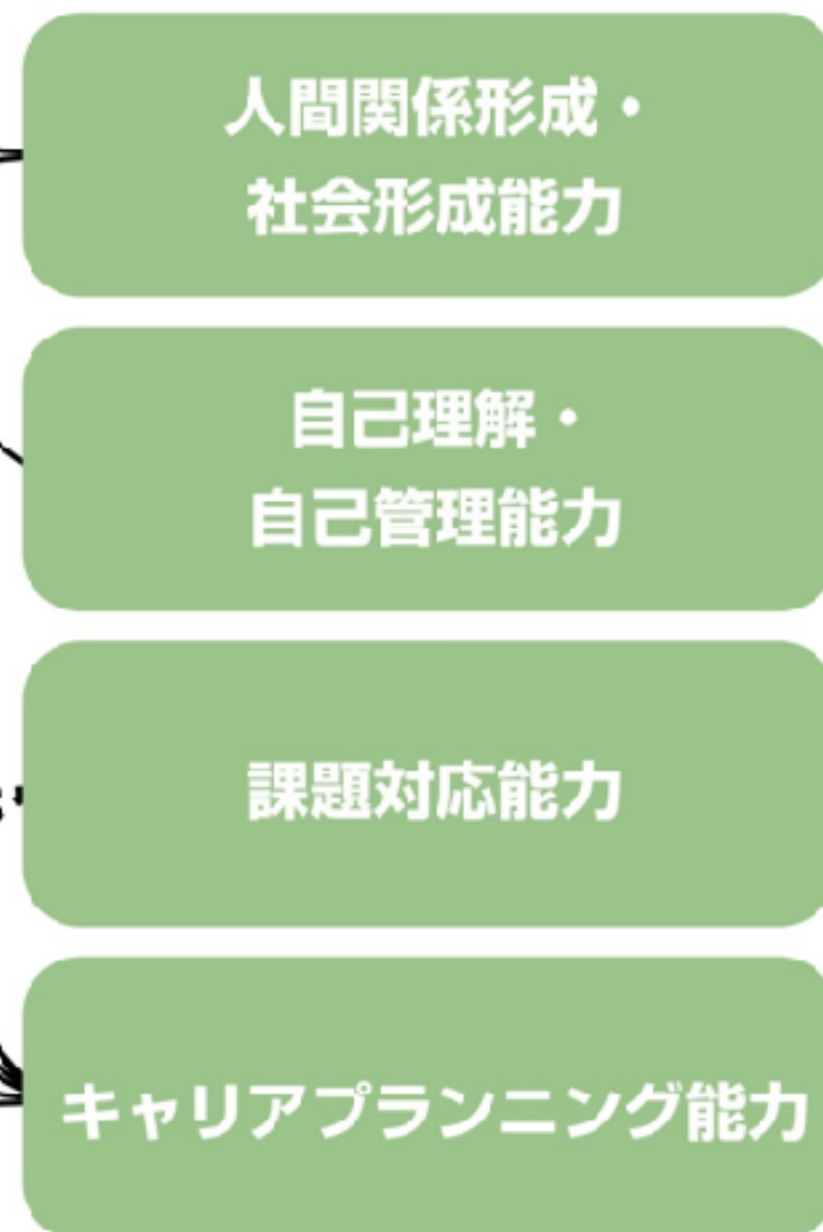
**社会の中で自分の役割を果たしながら、
自分らしい生き方を実現していく過程**

(中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」
(平成 23 年1月 31 日))

「キャリア発達にかかわる諸能力（例）」
（4領域8能力）

人間関係 形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用 能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計 能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意思決定 能力	選択能力 課題解決能力

「基礎的・汎用的能力」

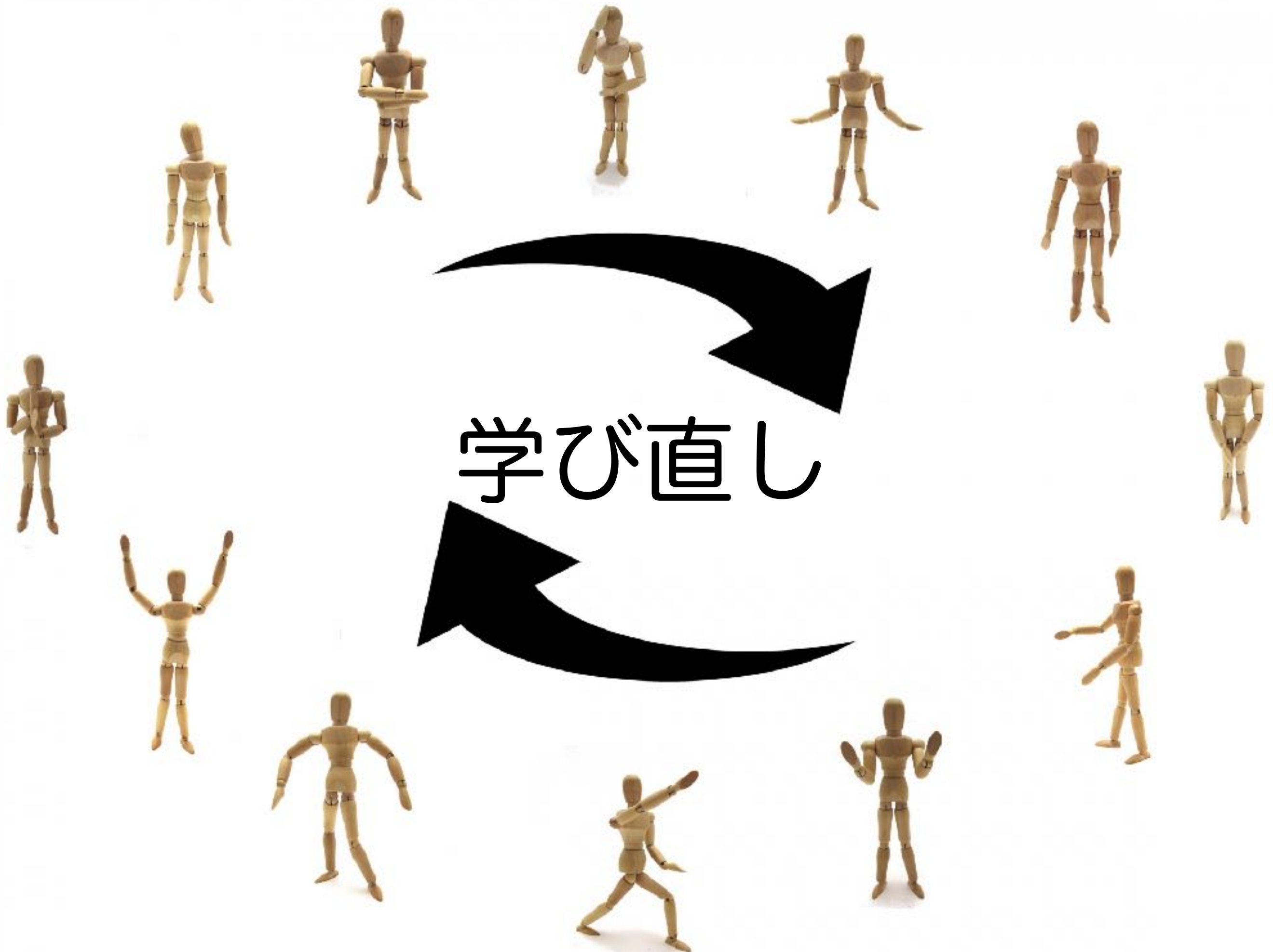


**「4領域8能力」から
「基礎的・汎用的能力」への転換**

An elderly couple is sitting at a light-colored wooden table, looking at a laptop screen. The man, on the left, has grey hair and is wearing a white short-sleeved button-down shirt. The woman, on the right, has dark hair and is wearing a blue and white striped long-sleeved shirt with a white collar and a decorative knot at the neck. Both are smiling warmly at the screen. The background is a plain, light grey wall.

リカレント教育？

学び直し





研究の目的

**研究調査・実践で明らかになった
具体的な手立てやこれからの学校の
在り方を、今後のコミュニティ・
スクール運営に活かす**



研究の仮説

**CSとして子どもと地域の大人が育ち合う
関係性を築いていく機会をつくることで、
これからの学校づくりに主体的に
関わろうとする人が増えるだろう**



研究の方法

A miniature figure of a person in a dark suit stands on the pages of a large, open book. The book is part of a stack of various books, some with white covers and others with colored spines. The background is a soft-focus view of more books, creating a sense of a vast library or a deep dive into research.

①文献・資料調査

あそびたい大図鑑

あそびたい大図鑑

貝瀬 滋 (著)



品川区立大井図書館
03-3777-7151



0711364119

②インタビュー調査

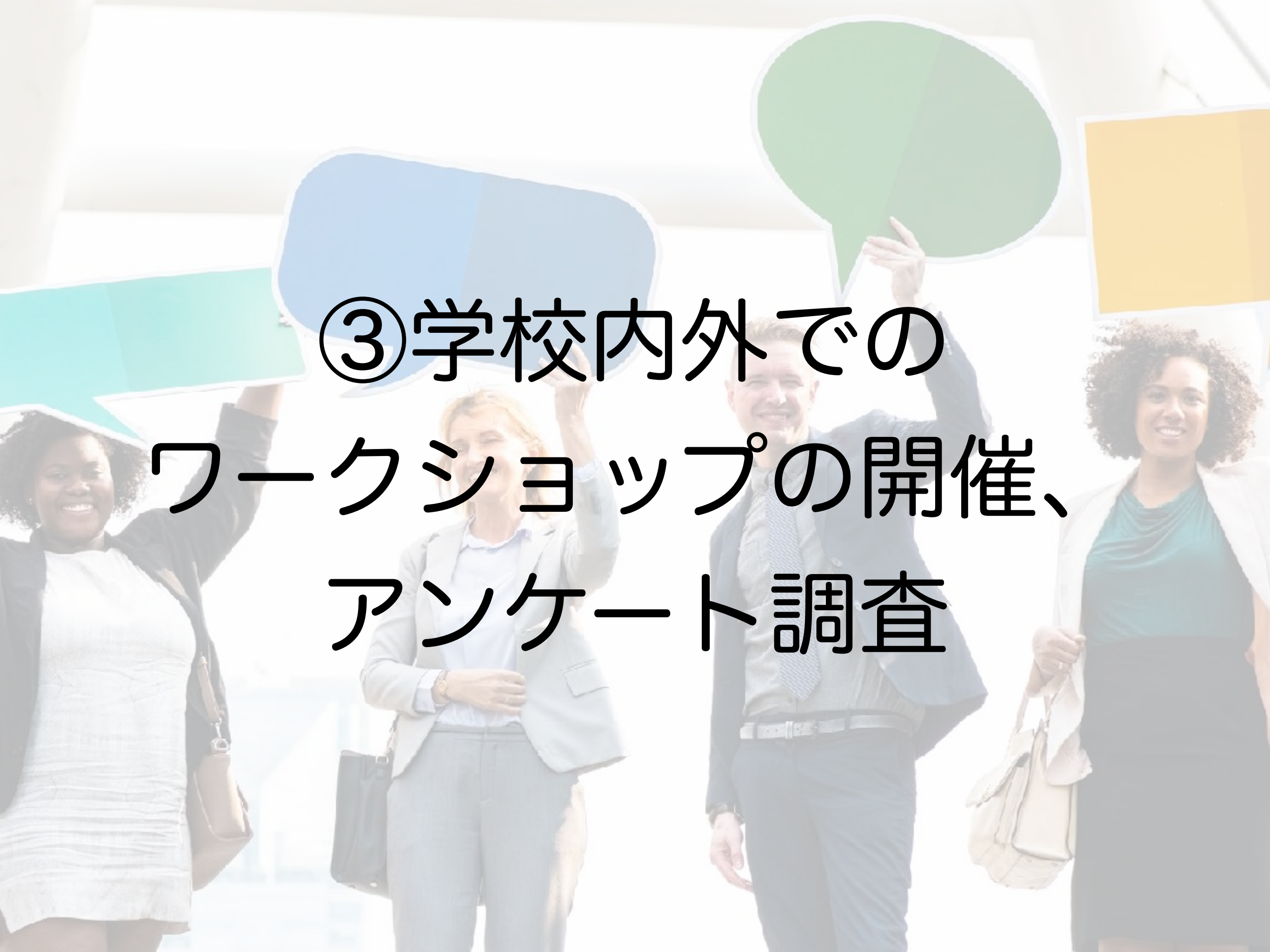


学校地域コーディネーター

校長

CS担当指導主事

CSの教職員

A group of four diverse business professionals (two women and two men) are smiling and holding up large, colorful speech bubble cutouts. The woman on the far left is holding a teal and green bubble, the woman next to her is holding a blue bubble, the man is holding a green bubble, and the woman on the far right is holding a yellow bubble. The background is a bright, out-of-focus office interior.

③学校内外での ワークショップの開催、 アンケート調査

④ 私の考える 次世代型 コミュニティ・スクール について



学校教育



国民国家型教育システムから

資質・能力重視教育システムを経て

持続可能社会型教育システムへ

学校教育3.0

国民国家型 教育システム

学校教育1.0

資質・能力重視 教育システム

学校教育2.0

持続可能社会型

教育システム



学校教育3.0

持続可能な社会

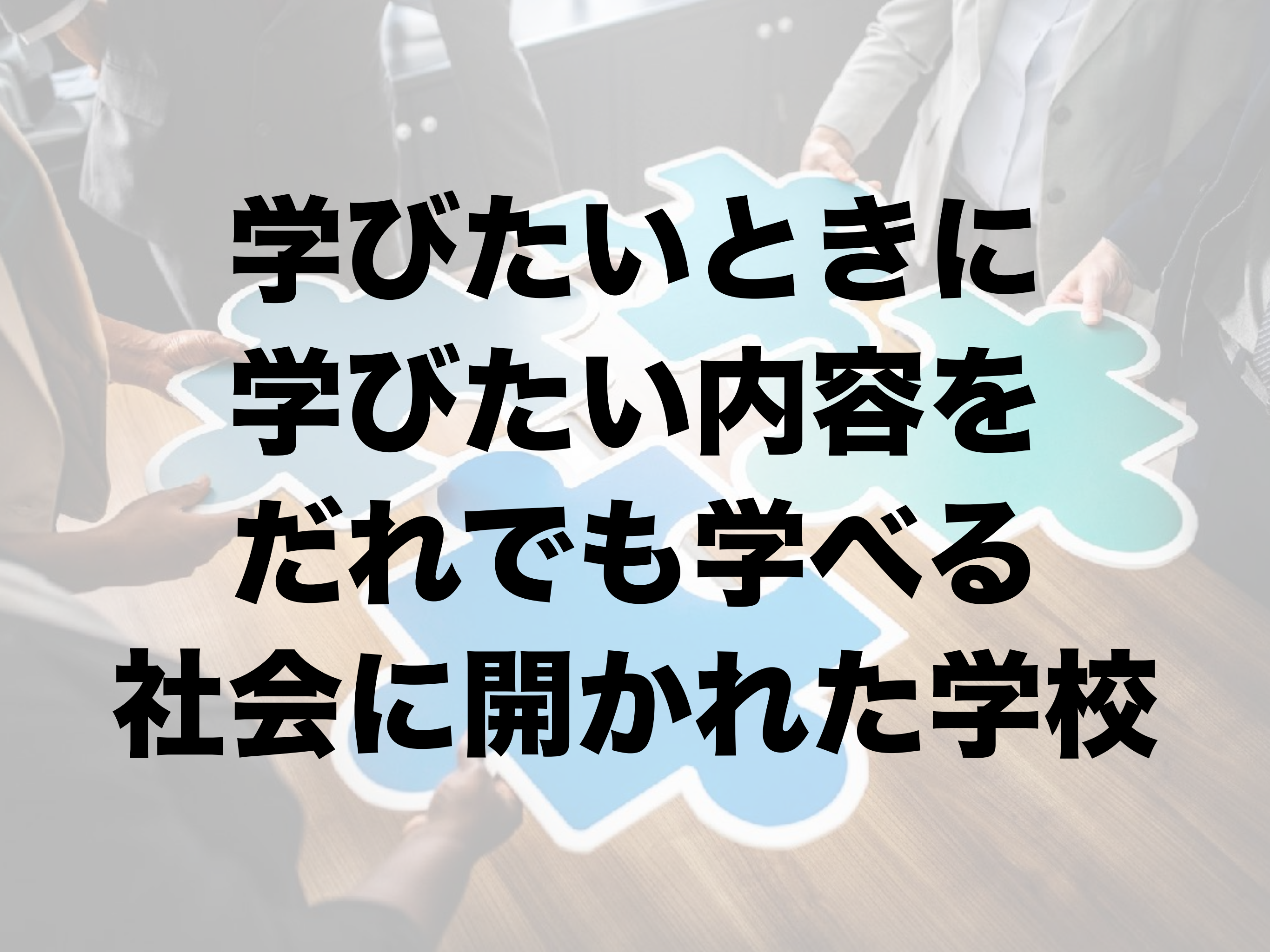
持続可能な学び



**① 目的をもって
学校へ行く**

**② 目的を見つけるために
学校へ行く**

**③ つながるきっかけ
価値観の多様性・重なり**



**学びたいときに
学びたい内容を
だれでも学べる
社会に開かれた学校**



**自分と社会とのつながりを
デザインする力**

**自分の延長線上に
わくわくする
未来を描く力**



⑤ 私が実践している 働き方改革



edcamp
ITABASHI

子どもたちを
地域みんなで育てる
環境づくり

1-1
学びの目的

1-2
地域協力
部活動
一元から多元

1-3
教員の幸せ
日本を明るく

1-4
親が地域に
目を向ける

1-5
学び学ばせる
の関係性
小さな学校

1-6
道徳科の
指導と評価

1-7
親として
子どもに
付けたい力

1-8
日本の教育を
途上国に輸出
外国との比較

1-9
0から1を
生み出す
教育

1-10
キャリア教育
自分らしく
べきからしたい

1-11
学校の役割



いたばし
対話+

since 2016.6

板橋区民で
対話をしたことがある人

80%



年間500人
56万人中

フューチャー
セッション

いたばし対話+（プラス）

未来
対話

edcamp
ITABASHI

対話の力で、板橋のわくわくする未来を
共に作りましょう！



Genshoku Learning Lab.

すべての子どもたちのために、カラフルな教師・教育を

「げんしょくラーニングラボ」

東京学芸大学

自主勉強会のプラットフォーム



Teacher's Lab.

We provide useful materials
for Professional Learning Teachers.

私たちは自律的に学び続ける先生に役立つ素材を提供します。

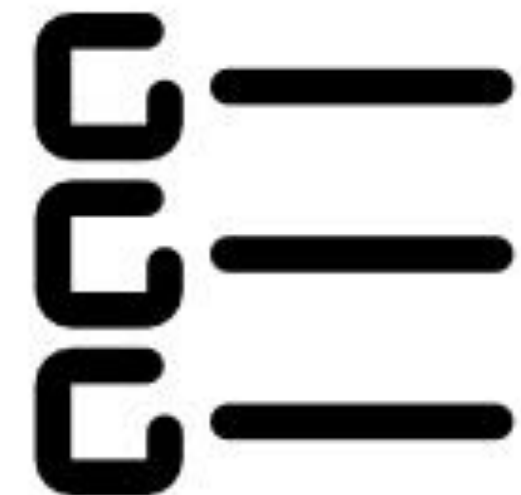
生成的な学び



内省的な学び



継続的な学び



Teacher's School アクティブラーニング型研修 第3回

『みんなで創る未来の教育』

～ジグソー法で新指導要領を読み解くワークショップ～

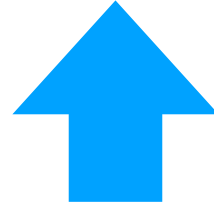




未来の先生展

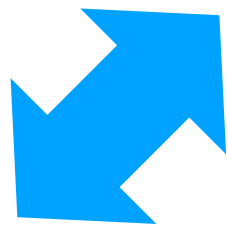
9/15(土)・9/16(日)
@聖心女子大学

多様なチャンネルをもち 不確実な未来を共につくる

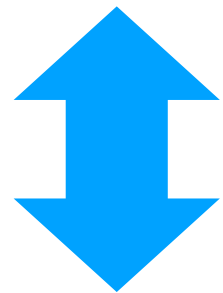


義務教育学校 主任教諭

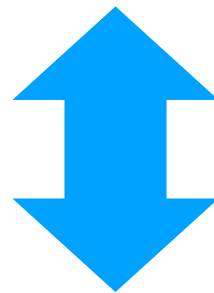
一般社団法人Teacher's Lab. 理事
げんしょくラーニングラボ 発起人
いたばし対話プラス ファシリテーター
edcamp ITABASHI 実行委員長
未来の先生展2018 実行委員



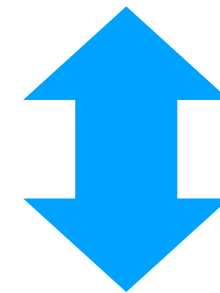
学校



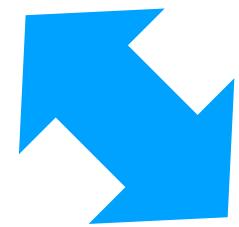
**校外
研修**



**教員
養成**



地域



家庭

— もし、あなた自身は未来への知識をほんの少ししかもっていないと感じていたとしても、教員として親として、たくさんの子どものことを子どもにしてやることができます。たとえば、子どもといっしょに空からまちを見下ろしてみましよう。そこには働くことや学びの美しさがあり、輝く瞳、人の役に立つ感動があります。一步踏み出して、子どもといっしょに今まで出会わなかった大人と関わることもできます。

— あなたがどこで暮らしているとしても、教室や住んでいる地域などで、あの不思議な人と人との関わりを見て、人としての成長を感じることのできるのです。さらに、たった一回の授業でまかれた一粒の種子さえも、芽をだし成長していく生命の神秘について、子どもといっしょにじっくり考える機会をあたえてくれるでしょう。

世界は学びの可能性に満ちている

manaco

子どもも大人もみんなで育ち合う
学びのコミュニティ